

⑦ 旧麓の田の神



元文1年(1736年)旧麓天神の田んぼ近くに建立されていましたが、現在、旧麓ふれあい広場の道路側に移されています。ここの田の神の特徴は、柔和な顔と、右手に飯杓、左手に摺小木を持ち、古い田の神の代表的な形をしていることです。昭和の初めごろまでは、毎年2月18日、近くの南方神社で豊作を祈願して、「イナジョガハホジョイ」のかけ声で、「牛の角」などの田の神祭が行われていました。

【喜入校区旧麓集落】

⑨ 肝付家歴代の墓地と小松帯刀



肝付家は、文禄4年(1595年)以降、270年あまりにわたって喜入を治めてきた一族です。この墓地は五段からなり、肝付家12代のうち、3代から11代までの領主をはじめ、一族の墓があります。

小松帯刀は、第11代喜入領主肝付兼善の三男で、吉利(現日置市日吉町)の領主小松家の養子となり吉利領主となりました。明治維新に際しては薩摩藩家老として、また西郷・大久保らの上司として大いに活躍しましたが、36才の若さで明治3年(1870年)に天逝したことから「幻の宰相」と呼ばれています。(小松帯刀の墓は吉利の小松家歴代の墓所にあります。)

【喜入校区旧麓集落】

⑧ 給黎城址



給黎城は3つの半島状台地を利用したもので、北側の突出台地を北之城、南側を南ヶ城、中央を本城と称し、本丸は本城の先端地域に設けられています。建久の昔、伊作平次郎大夫良通の次子兵衛有通がここに居城し、姓を給黎と名乗っていました。その後、応永18年(1411年)伊集院頼久所領となりました。しかし、同20年(1413年)島津久豊が肥後球磨の城主相良氏の援軍を得て、駒を返し(駒返しの名が付きます。)頼久を攻め戦勝を祝して、給黎を「喜入」に改めました。文禄4年(1595年)より代々肝付氏の居城となり、承応2年(1653年)4代領主兼屋のとき、現在の麓(喜入小学校)に別館を移すまでの約460年以上、ここが麓として政治の中心的役割を果たしてきました。

【喜入校区旧麓集落】

⑩ 香梅ヶ淵(郷土誌による)



旧麓集落の南端を流れる八幡川の清流が淀んでできた紺碧の淵があります。この淵は、流れの中に岩が突出し、入り江状になっています。その為流れがこの場所で一旦上流へ流れてから下流へ流れています。この淵には、哀れな香梅という侍女の物語が伝えられており、この淵の名はその名をとったと言われています。

【喜入校区旧麓集落】

⑪ 旧麓水路



旧麓は、その名のとおり往事、給黎城の麓に当たる場所で、現在でも武家屋敷のたたずまいのある地区です。水路は幅約1m、長さおよそ500mで八幡川に流れ込み1年を通じてきれいな水をたたえています。

【喜入校区旧麓集落】

⑬ キイレツチトリモチ



キイレツチトリモチは、明治43年(1910年)当時喜入小学校の教員山口静吾氏が、この地で発見し、牧野富太郎博士によって命名され、世界に発表されました。キイレツチトリモチは、トベラやシャリンバイの根元に寄生するもので、茎は直立し、高さは3~10cm程度です。雌雄同株で、花は10月~11月頃に咲き「ツクシの坊や」を大きくしたような形で、白色のものと黄色のものがあります。

【喜入校区麓集落】

⑫ 淵田坂の一本桜



県道232号線(喜入知覧線)沿いにあり、鹿児島県本土で屈指の早咲きの山桜で、樹齢90年近いといわれる大木です。例年3月初旬には満開になりますが、はやいときには2月上旬には咲き始めます。

【喜入校区淵田集落】

⑭ 伊牟田尚平誕生地の碑



伊牟田尚平は、天保3年(1832年)旧市に生まれ、長じて尊皇攘夷論者として活躍しましたが、王政復古実現の頃、京都で起こった辻斬り事件の薩摩藩の責を引き受け自刃しました。尚平の功績を後世に伝えようと安楽兼道(喜入出身、警視總監4回、喜入小学校に胸像があります。)ら有志により大正12年(1923年)に誕生地に碑が建立されました。

【喜入校区旧市集落】

HITOKURA



①一倉の二重橋(石橋)



この石橋は、明治44年(1911年)に架橋されたもので、一倉には石切を生業とする人が多くいたと言われており、この橋の架橋にも地元の人が携わったと言われています。

長さ 7.95m 幅員 2.7m
径間 7.4m 拱矢(高さ) 3.0m

【一倉校区】

②一倉の河鹿公園



一倉を流れる八幡川上流の河川整備に伴い平成8年(1996年)に新設され、河鹿が沢山いる親水公園です。

【一倉校区】

③製鉄炉跡



喜入の海岸付近一帯は、藩政時代から良質の砂鉄がとれ、三國名勝図会にも薩摩半島では、盛んに製鉄が行われていたことが記録されています。この製鉄炉は、江戸時代末期から明治初期に使用されていたと言われてています。

【観光農業公園(仮称:建設中)を流れる八幡川の右岸にあります】

【一倉校区】

④オロ跡



一倉・小田代では、藩政時代から馬の放牧が盛んでした。旧牧などの地名や、馬頭観音、オロ(放牧の馬の囲い)の跡、小田代の競馬場跡など、馬に縁のあるものが多く、中でも、観光農業公園(仮称:建設中)内にあるオロの土塁は、ほぼ完全な形で保存されています。

【一倉校区】

⑤小田代の供養塚



小田代集落内の畑の土手に建てられており、高さ40cm、幅15cmほどの山川石で作られた碑です。永祿のころ(約400年ほど前)仏様を信仰する人々が、家内安全、五穀豊穡などを祈念して建立したものとされます。

【一倉校区小田代集落】

⑥小田代の馬頭観音



馬頭観音は、民間では馬の無病息災や旅の無事を祈る守護神として崇拝されていました。小田代のもとは、武士たちが乗馬の稽古に励んだ涼松にあったもので、大正5年(1916年)に小田代競馬場へ移され、その後現在の場所に移動されたものです。

【一倉校区小田代集落】